

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	青木 滋之		
NAME	Shigeyuki Aoki		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記のとおりご報告いたします。

1. 研究課題

イギリス経験論の進展を題材としたメタ哲学の研究

2. 研究期間

2020・2021・2022年度 ※2022年度は新型コロナウイルス感染症特例対応により1年間延長

3. 費目別収支決算表

掲載省略

4. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

本研究課題は、2019年にオックスフォード大学で行った国際カンファレンスで発表された発表原稿*を発端とする。その目的は、一見すると相反するように見える

(A) 哲学の「進歩」は、単純化・抽象化されたヒストリオグラフィーを採用した場合に生じる

(B) そうしたヒストリオグラフィーを拒絶することで、我々は元の古典テキストに立ち戻ることができる

という2つのテーゼを、17-18世紀のロック-バークリ-ヒュームによる「イギリス経験論」の展開に即して、綿密なテキスト検証から証明しようとするものであった。

成果としては、ロック-バークリ、バークリ-ヒュームのいずれのステップにおいても、(B) 一次文献のレベルでは論点が多岐にわたり、決して一義的で明確な進歩が見られないのに対して、

(A) 後世のリード、グリーンらの定式化によって、あたかも「進歩」ないし発展が語られるようになった、という見通しが得られた。本研究成果は、2023年度の紀要論集『哲学』で公表する予定である。

*Shigeyuki Aoki (2019), "Locke versus Berkeley revisited – an interpretive essay on historiography", UK-Japan Special Conference : Aspects of Early Modern British Philosophy, St Peter's College, the University of Oxford

（英文）

This study aims at clarifying the following two apparently contradictory claims:

(A) "Progress" in the history of philosophy is made when one adopts a simple or abstract historiography.

(B) When one rejects such a historiography the real facets of philosophy become manifest. A detailed case study on the development of "British Empiricism" has shown that so-called Locke-Berkeley-Hume tripartite canon was the hindsight product by the later historians of philosophy such as Thomas Reid and T.H. Green.